



B

A_LDKは床から吹き抜けの天井まで大開口にした。ダイニングテーブルやリビングのソファなど、居場所ごとに眺める景色の違いも、目を楽しませてくれる。 B_片流れの大屋根が目目を引く外観。標高1200mの高原の森に350坪の敷地を購入し、このコンパクトな平屋を建てた。 C_もとからある森に家が自然に溶け込むように、四季の移ろいを感じさせてくれる多様な樹種の木々を植えた。



C

体感、家の中に入るといっそう深まります。森と向かい合うLDKの大開口、床のチーク材と天井のビラー材の響き合い、外観のイメージと森の息吹をさりげなく室内に取り込む軒天と室内天井の連続性。さらに、グレンジュの壁と木部の落ち着いたトーンも、静かで穏やかな森の時間を味わうための心地よい演出です。「お客様のこの先の人生にとって居心地の良い起点となるように」と設計士。「今の好みや流行に左右されない、10年先20年先に良かったと思える空間づくりを」とインテリアコーディネーター。その想いが見事に結実しています。

森の中に立つそのコンパクトな平屋は、ボリュウムのある大屋根が印象的でありながら、周囲の森に自然に溶け込んでいます。広大な敷地に生える木をできる限り残したこと。上品でいて自己主張しすぎない家づくり。そして、もとの森と人工物である家を馴染ませる造園家の仕事の妙。自然豊かな環境に家を建てるお手本を見ようです。

A 夫妻は「元気でいられるうちは森の中で過ごそう」と、一帯が別荘地で、下水道などインフラが初めてから整っていたこの土地に家を建てることにしました。ビルダー選んで候補に挙がった6社ほどの中から、サンプロを選んだのは、屋内外ににじみ出る上質な空気感と、それを生み出す素材使いの巧みさに、二人の感性が響いたからでした。

外観から感じられる森との一

森の時間、二人の時間、一人の時間

森に溶け込みながら

森の時間を楽しむ演出



二人のときも一人のときも
家時間の大切さを
実感させてくれる

「家の中では互いに好きなことを
しよう」というのが二人のスタ
ンスです。だから、森の時間を楽
しむこの家は、夫婦がそれぞれ
一人の時間を楽しむ家でもあり
ます。ご主人はガレージで愛車
のメンテナンスに勤しみ、ある
いは書斎でプラモデルづくりに
興じます。一方、別々にした寝
室で、奥様は本の世界に浸ります。
気心の知れた夫婦だからこそ、
相手の気配がしてもしなくても、
互いに充実した時間を過ごして
いることが分かり合えるのです。
二人の時間も大切にしていま

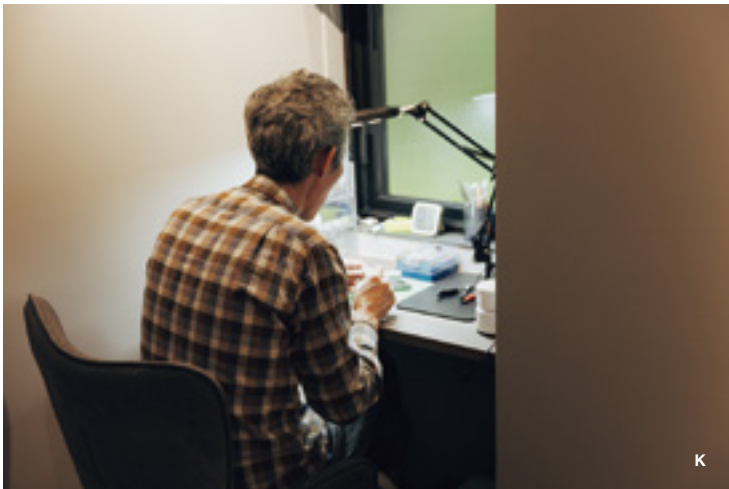
す。お酒好きの夫妻は、晩ご飯
の食卓でグラスを傾けては、曰
く「ばかっ話」に花を咲かせる
のだとか。サンプロによる最小
限の間接照明をベースに、ご主
人が適所に配置した照明の灯り
に包まれながら、今夜も夫妻の
柔らかな笑顔が浮かんでいるは
ずです。

かつて仕事でスウェーデンを
訪れたときに知った「家時間の
大切さ」を、今この家で実感し
ている。森に包まれ、二人で和
やかに、ときには思い思いに過
ごしながら……。そうご主人が
話すのを聞いて、奥様は黙って
うなずいていました。
書斎に掛けられたご主人の祖
父譲りの古時計は、またとない
居場所を得たように、温かな時
を刻んでいました。



D床はチーク材、天井はピーラー（木目の
緻密なペイマツ）。色合いや木目の異なる
2つの樹種が協奏しながら、本物の素材
がもつ 気 品 を 漂 わ せ て い る 。
Eリビングダイニングは天井に施された
間接照明をベースに、ご主人が適所に効
果的な照明を配置した。精緻に積み上げ
る日本のものづくりを思わせる空間。 **F**_
高い住宅性能を備えたサンプロの家。標
高1200mの高原の森でひと冬を過ごして
も、家の中で寒さを感じることはなかった
という。 **G**_土間デッキの向こうに設けた
視線よけの壁には、小鳥たちが憩いにく
る。森やそこに暮らす生き物たちの小さな
変化にも日々のよろこびを感じる。 **H**_家
事動線を重視し、キッチンを中心としたゾ
ーニングを採用。そのキッチンはクールな
佇まいと使い勝手の良さを両立している。





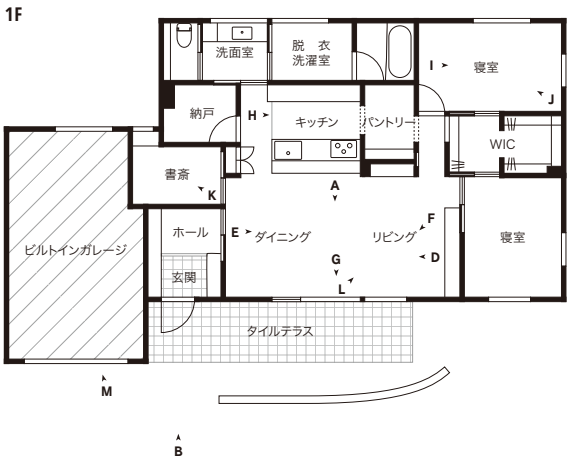
I_夫婦各々の寝室に森の風景を切りとるピクチャーウィンドーをつけた。一人で森と対話する時間は今日一日を労い、新しい一日を励ましてくれる。 J_読書が趣味の奥様は、自室で心置きなく物語世界を旅する。家族の数や年齢に関わらず、何かに没入できる環境と時間は必要だ。 K_仕事でものづくりに携わるご主人は、自宅でも自分の手を動かして何かをつくることによるこびを感じるという。 L_&Traditionのテーブルランプ脇の写真は、昔スウェーデンへ出張したときのもの。かの地で「家時間の大切さ」を知った、とご主人。 M_ビルトイン・ガレージにはオープンスポーツカーが置かれていた。次の出番に備えてメンテナンスも入念に行われている。 N_350坪の広大な敷地に立つA邸。上空から見ると、その平屋が森に抱かれているのがよく分かる。

PLAN

DATA

敷地面積 1136.06㎡ (342.97坪)
延床面積 127.11㎡ (38.37坪)
1F面積 100.20㎡ (30.25坪)

工法／木造在来軸組工法 基礎／ベタ基礎 構造材／柱：県産スギ、梁：ベイマツ、土台：木曽ヒノキ 断熱材／天井：セルロースファイバー360mm、壁：セルロースファイバー105mm、基礎：スタイロフォームエースII100mm 主な外装仕上げ／屋根：ガルバリウム鋼板縦葺き、外壁：ジョリパットアルファ塗装 主な内装仕上げ／天井：自然素材壁紙・羽目板(ビラー材)、壁：自然素材壁紙、床：無垢フローリング(チーク) 開口部／高性能トリプルガラス樹脂窓(アルゴンガス入り) キッチン／トクラス コラージア キッチン熱源／ガス バスルーム／トクラス ユーノコンフォートライフ 暖房の種類／エアコン・全館空調 C値／0.13 UA値／0.32



Comment

Owner: Aさんご家族

Q1. 家づくりで一番大切にしたいことは？

A 一人の時間も、二人一緒の時間も、家にいる時間を大切に思える家。

Q2. こうしておいてよかった、と思ったことは？

A 伊那展示場を参考にしたランドリールーム。プライベートスペースを確保したこと。庭づくり。

Q3. このビルダーさんに頼んでよかったことは？

A 打ち合わせの時間がとにかく楽しかった。床や天井の素材などで長く愛せる本物を提案してくれました。

Builder: 設計担当／片桐憲之さん
インテリアコーディネーター／熊倉昭子さん

Q1. この家のコンセプト、ポイントは？

A 別荘地の森の中で、印象的な外観を見せながら、建物を周囲の緑に溶け込ませること。

Q2. この家の見どころを3つに絞るなら。

A 森に馴染むすっきりとした大屋根の外観。木々の緑や木漏れ日を感じられる大開口と吹き抜け。キッチン中心の家事動線を重視したゾーニング。

Q3. 家づくりで一番大切にしていることは？

A お客様と建築士という関係を越え、人と人としての信頼関係を築くこと。